

事業報告書（令和4年度）

事業名 常設まちライブラリー事業

団体名 まちライブラリー奉還町

担当者名 野村泰介

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）
<p>・2022年9月～12月 地域交流ステーションベルデ仮設スペース（SGSG内）毎週1回開催 地域の住民・大学生ボランティアが、ライブラリーに寄贈された本（約400冊）の整理を行った。また、開架用の本棚の制作を行った。3カ月間の延べ参加人数 38名</p> <p>・2023年1月～2月 地域交流ステーションベルデ 月・水・金 13:00～17:00 地域の住民や学生が自由に本を読めるスペースを開設。24回開設 延べ参加人数 156名</p> <p>・1月21日（土）イベント「オススメ本プレゼン大会」地域交流ステーションベルデ 13:00～15:00 参加人数 11名</p>
2. ESDの視点
<p>①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか</p> <p>利用者は10代から70代までと幅広く、常設の場を持つことで、若者からお年寄りまで広い世代が日常的に商店街を利用しながら本を通じたコミュニケーションを行うことができた。</p>
<p>②どのように学び合いを取り入れたか</p> <p>まちライブラリー奉還町へのボランティアを「まちの司書さん」という名前で募集し、10代から60代の方8名が応募してくれた。まちの司書さんに対する研修として、本の整理法などの機会を設けた。</p>
<p>③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか</p> <p>「まちの司書さん」ボランティアに参加することで、10代のボランティアさんと60代のボランティアさんが本を通じた交流が可能となり、多世代交流のノウハウを身に着けることができた。また、スタッフの中に図書館業務経験者がいたので、図書館運営の方法をボランティアスタッフも体得することができた。</p>

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

活動を2022年9月～12月を前期、2023年1月～2月を後期に分け、主に前期をライブラリーの整備とスタッフの育成、後期を地域交流の実践という色付けで行った。前期はコアスタッフとして関わる人を増やすため、岡山NPOセンターが運営するボランティア情報コーナーに募集情報を掲載した。後期は、ホームページを開設して常設ライブラリーの認知度向上をはかった。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域のESDの取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

まちライブラリー奉還町の運営ノウハウを同様の方法で街づくりを考えている地域・団体に拡げることで「本を通じた多世代交流の場づくり」が可能になるという視点で運営した。2022年12月より、岡山県倉敷市のNPO団体、愛媛県宇和島市役所地域協働部門の担当職員が視察に来た。また、3月以降も、愛媛県名古屋市や、鳥取県日南郡のNPO団体の視察を受け入れる予定である。